



平成26年1月29日「田ごと 本店」にて

俳句同好会

代表世話人 小野 野一

世話人 山科 爽風

社団法人京都電業協会の俳句同好会も回を重ねて、第百八十一回を開催する事ができました。

現在会員十名で句座、吟行を開催しています。初心者を含め入会をお待ちしています。

第百七十九回 平成二十五年二月十四日(木)

兼題 「初午」「バレンタインの日」「ふき路の臺」

「雪解」

句座 「喜久屋 駒井」 東山区川端通松原上ル

兼題句

待ちかねて前にあそこに路のとう

紫峰

◇路の臺淡雪の下でかくれんぼ

爽風

石段を孫の手引いて初詣

巽

バレンタインかわりなくて十二年

陵南

よき兆し孫の笑顔が初夢に

紫峰

◇走り根にそいて雪解大師堂

尚信

路の臺一味苦む懐石か

野一

初夢を見たさに早く床に着く

みつへ

誰あげるバレンタインの日数かぞえ

みつへ

路の臺見つけ微笑む老夫婦

爽風

元旦に祝酒飲み二度寝せり

野一

雪解はまだまだ遠いと干魚売り

尚信

初午や末社稲荷の鈴の音が

尚信

初句会字余り字足らず舌足らず

窓外

山寺や手水鉢にうす氷り

佐伯

初午や手をとりあつて古希と喜寿

陵南

孫のチョコもらつてうれしバレンタイン

佐伯

◇居酒屋の品書変へて路のとう

陵南

ほろ苦い季節の恵み路の臺

巽



第百八十回 平成二十五年四月九日(火)

兼題 「石畳」「おしろい」「公園」

吟行 「円山公園・祇園花見小路」 界隈
句座 「たん周」 東山区花見小路末吉町西入ル

兼題句

春雨に花影も映し石畳

紫峰

みちのくへ桜前線なお遠く

窓外

啓蟄や虫を見紛ふ石畳

尚信

おしろいの白き顔さす春光り

みつへ

石畳花見小路で春の句座

尚信

いづこよりひとひら格子戸石畳

窓外

石段のすみに咲く花たんぽぽか

佐伯

潔よし散花のあとの青葉また

紫峰

春風に木漏れ日映えし石畳

紫峰

◇おしろいに時間が溶ける花見酒

進藤

花まつりおしろい顔の地蔵尊

尚信

花果つも八坂神社の人手かな

窓外

石畳通りすぎれば花の中

陵南

白粉と口紅つけて七五三

陵南

柳の芽公園の土手緑冨え

野一



第百八十一回 平成二十五年九月二十六日(木)

兼題 「街」「市(場)」 「保存」「猛暑」

吟行 「田の字地区」 界限

句座 「田」と「四条河原町西入ル北側

兼題句

地蔵盆猛暑の街の辻奥に

尚信

しずけさや保存家屋に伸びる葛

陵南

秋風に往時を偲ぶ赤レンガ

紫峰

電線の譜面奏でる名月や

桜井

雨あがり暑き負けじとせみの声

みつへ

堪忍ももはやこれまでこの暑さ

紫峰

錦市威勢よき声秋刀魚買う

野一

街角で柚子の香りや老舗かな

巽

京の街朱いレンガと蕨の碧

紫峰

猛暑日と猛雨日あえぐ地球かな

野一

古き街保存手入れに秋立ちぬ

陵南

まちなみに蕨からむ家たたずんで

進藤

秋風の通りぬけるや京の街

陵南

秋日和自分の影と街を行く

野一

◇街中のレンガ造りに鯛雲

巽

家辺徳にハレの慶び秋の空

進藤

根をあげる浴衣の裾のからみつき

みつへ

ありがたき友より梨の届きたり

爽風

雨台風想定外の雨量かな

佐伯

市場にて秋茄子の味待ちきれず

桜井

◇御所を抜け丸竹夷で蝉が止み

爽風

さだまらぬ保存袋にもどり夏

尚信

(◇…各句会の最多得票句を示しています。)

追記

当同好会も少しづつメンバーが増え、充実して来ました。

ベテラン会員が優しく指導して下さいます。是非、気軽に参加ください。投句も歓迎です。

山科 爽風

俳句同好会参加者

正会員

㈱オリヂナル電設 石崎 一郎 (陵南)

三和電気工業㈱ 小野 俊一 (野一)

㈱昭和電工社 進藤 久和

東邦電気産業㈱ 佐伯 希彦

㈱日本電気 松井 章 (紫峰)

宮本電気工事㈱ 宮本 みつへ

山科電気工事㈱ 山科 隆雄 (爽風)

特別参加

川鉄電設㈱ 下里 尚信

三木 一義 (窓外)

投句

巽 信吾 (事務局 元職員)

桜井 舞子 (事務局 元職員)

平成二十六年一月

協会広報誌 第五十七号掲載



平成27年1月29日「入舟」にて

俳句同好会

代表世話人 小野 野一

世話人 山科 爽風

一般社団法人京都電業協会の俳句同好会も回を重ねて、第百八十二回を開催する事ができました。現在会員十名で句座、吟行を開催しています。初心者を含め入会をお待ちしています。

第百八十二回 平成二十六年一月三十日(木)

兼題 「初句会」「三が日」「初富士」「出初句座」「田」と本店」(四条河原町西入る北側)

兼題句

- 北陸路敦賀の先は雪景色 佐伯
- 恙つが無く越え来し米寿の初句会 陵南
- 寒風に水に虹映え出初式 紫峰
- 出初式二日酔い抜け凜とする 野一
- 執念で一句入ったぞ初句会 窓外
- 連日の酒抜けきらぬ初出の日 爽風
- 孫が出来てんやわんやの三が日 野一
- 三が日娘の酌で箸すすみ 爽風
- 初富士は末広がりのめでたきや 桜井
- 灯に入れる御籤の託宣三が日 尚信
- 吟醸酒三が日くるくる猪口の底 窓外
- 囲まれて美味しい物食べ初句会 野一

鴨河原北山霞む冬の雨

巽

着ぶくれが京までラッシュユ雨の朝

尚信

町内の灯はことのほか三が日

尚信

はっぴよし鶯勢ぞろい出初晴

窓外

懐かしき声があふれる三が日

桜井

上を向きアベノミクスぞ出初式

進藤

去年今年同じ流水の四条橋

陵南

縮こまる背中伸ばせと冬立木

巽

木枯やお地藏さんもさむかろう

佐伯

◇ やれ嬉し句友の笑顔と初句会

紫峰

亡き父の遺影と語る三が日

進藤

三が日長命無欲酒ひかえ

陵南

朝日さす富士のお山は神の山

佐伯



第百八十三回 平成二十六年六月九日(月)

兼題 「梅雨」「螢」「紫陽花」「鮎」

吟行 「高台寺 一円」

句座 「あきしの」京都ホテルオークラ 地下二階

兼題句

思いつめ 螢灯りに寂求め 紫峰

梅雨晴れ間 天空よぎる流れ星 巽

梅雨の朝砂場にひとつ三輪車 陵南

紫陽花は水色がよし三室戸寺 陵南

いつかまた 螢乱舞の里となれ 爽風

清流が戻ってきたと 螢舞う 進藤

あじさいや 雨を吸ったかあざやかに 佐伯

鮎遊び竿に受けるかあの 当たり 野一

水遣りの手間が省けて 梅雨も 良し 爽風

源平の遺恨も 彼方 螢舞う 巽

梅雨入りと 宣言するは テレビ なり 宮本

梅雨 じたくカサと カップを 買い揃え 佐伯

カキ氷ひと息ついてねねの道 巽

◇ 紫陽花に道塞がれて袖濡れる 進藤

緑陰のうたた寝鮎の跳ねており 爽風

梅雨に咲く青黄桃色傘の花 桜井

走り梅雨雨意に鳴く音も二つ三つ 尚信

どう食べる意見別れる鮎二匹き 宮本

姫螢せわしく光る過疎の村 陵南

焼き鮎の頭も食べる釣り名人 進藤

小雨降る紫陽花寺に傘のむれ 野一

梅雨めいて雫きらめき萌葱色 紫峰

塩焼きの鮎を食べたし和知の幸 桜井

竹箸もいろどりのうち鮎料理 陵南

走り梅雨季節気分のせめぎあい 尚信



(◇…各句会の最多得票句を示しています。)

追記

最近の句会の特徴として、新規加入の進藤さん、投句参加の事務局巽局長と桜井さんが大活躍なことが挙げられます。句会では陵南(石崎さん)、窓外(三木さん)、尚信(下里さん)の3人のベテランが優しく、ユーモアを交えて解り易く指導して下さいます。美味しい料理とお酒、愉快なお喋りも句会の醍醐味の一つです。自分の作った、この世にたった一つしかない句が少しづつ増え、そして残って行くことは楽しいものです。会員がお誘いいたしましたら、あなたも是非お気軽にご参加ください。 山科 爽風

俳句同好会参加者

正会員

㈱オリヂナル電設 石崎 一郎(陵南)

三和電気工業㈱ 小野 俊一(野一)

㈱昭和電工社 進藤 久和

東邦電気産業㈱ 佐伯 希彦

㈱日本電気 松井 章 (紫峰)

宮本電気工事㈱ 宮本 みつへ

山科電気工事㈱ 山科 隆雄(爽風)

特別参加

川鉄電設㈱ 下里 尚信

三木 一義(窓外)

投句

巽 信吾(事務局) 元職員)

桜井 舞子(事務局) 元職員)

平成二十七年一月

協会広報誌 第五十九号掲載

俳句同好会

代表世話人 小野 野一

世話人 山科 爽風

一般社団法人京都電業協会の俳句同好会も回を重ねて、第百八十五回を開催する事ができました。現在会員九名で句座、吟行を開催しています。初心者を含め入会をお待ちしています。



平成28年1月25日「喜久屋 駒井」にて

第百八十四回 平成二十七年一月二十九日(木)

兼題 「初詣」「年賀」「雑煮」「注連飾」
句座 「入舟」 京都ホテルオークラ 六階

兼題句

- 注連繩飾少し見栄はり大振りに 爽風
- コンビニのどの店先も恵方巻 巽
- 初詣米寿祝のバックさげ 陵南
- 雪化粧朝日に映える嵐山 巽
- 若き日の父の威厳や注連繩飾 進藤
- 注連繩飾り少なくなりけり門の上 野一
- 注連繩飾舞妓行き交う祇園町 巽
- 雑煮食べ郷里の香りにつまれて 桜井
- 闘病の友よりくれし年賀状 陵南
- 初春やあらこちらに雪だるま 紫峰
- 黒豆の色艶やかに朱塗膳 しゆぬぜん 爽風
- 食べ過ぎに運動をかね初詣 野一
- 大雪に卒寿を寿ぐ年賀かな ことほ 進藤
- 北陸路大雪見たり汽車の窓 佐伯
- 初詣皆んなで頼む良い年に 佐伯

元気です一筆添える年賀状

巽

ウエストが悲鳴を上げる雑煮かな

進藤

柏手がひとときわ響く初詣

桜井

今年こそ平安願う初詣

巽

母の味なかなか出せぬ雑煮かな

爽風

初詣賽銭以上の願い込め

桜井

◇ひとことの添え書き嬉し年賀状

桜井

今年より小さくなりし注連飾

陵南

第百八十五回 平成二十七年四月八日(水)

兼題 「桃」「梅」「桜」「春風」「水」
句座 「南禅寺 菊水」 左京区南禅寺福地町三十一

兼題句

- ◇ 枝葉張り桜トンネル身をかがめ 宮本
- 山門を額に見立てて山桜 巽
- 旧暦のお雛飾りや桃の花 進藤
- たおやかな手触りうぶ毛桃ふたつ 野一
- 花一輪梅の香りに我忘れ 宮本
- 春風を追い抜き駆ける一年生 桜井

老梅の枝懸命に天を向き
爽風

水落ちる春風に起つ獅子落魯し
野一

梅の香にふと立ち止まる散歩道
巽

木もれ日に踏むを迷う春の道
紫峰

梅香り思わず背伸び深呼吸
桜井

庭の木も眠りから覚め春の雨
爽風

桜散る酔えば同じや花の宴
進藤

きそい咲く桜の愁いわが想い
野一

花卉の浮かびし盃に月映し
紫峰

白い傘桜ふぶきで色を変え
佐伯

畦道で踏まないようにつくしんぼ
巽

春風に散り行く花びら送る道
桜井

いま少し残ればよきに花ふぶき
紫峰

春風に背を伸ばし行く土提の径
爽風

やかた船桜ちりばめ川くだり
佐伯

春風に乗って聞こえる遊びの声
宮本

青によし仲良く浮かび花いかだ
紫峰

ぼんぼりと都をどりて春を知り
佐伯

窓ごしに梅一輪のかれんきや 宮本
春風に吹かれて遊ぶシャボン玉 巽

(◇…各句会の最多得票句を示しています。)

追記

俳句は難しいと思う方が多いようですが、ルールはいたって簡単です。五・七・五の十七文字でまとめることと、季語を二つ織り込むこと、この二つです。季語が二つ入るのは一般的にダメとされ、私はよくこの「季語ダブリ」をやっています。

同好会の句会では先輩がしっかりチェックして下さるので安心ですが、今回の四十九句の中にも季語ダブリの句が混ざっているかもしれません。

季語ダブリ お酒が許す 初句会 (爽風)

字余り、季語なし、季語ダブリ、大いに歓迎です。あなたも是非ご入会ください。

山科 爽風

俳句同好会参加者

正会員

(株)オリヂナル電設 石崎 一郎 (陵南)
三和電気工業(株) 小野 俊一 (野二)
(株)昭和電工社 進藤 久和
東邦電気産業(株) 佐伯 希彦
(株)日本電気 松井 章 (紫峰)
宮本電気工事(株) 宮本 みつへ
山科電気工事(株) 山科 隆雄 (爽風)

特別参加

三木 一義 (窓外)

投句

巽 信吾 (事務局 元職員)
桜井 舞子 (事務局 元職員)

平成二十八年二月

協会広報誌 第六十一号掲載